猿新聞

編集・発行
山村　準
tel:0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp

シカによる森林被害

全国的にシカが急増しており、森林被害が深刻な問題となっています。

三重県内の推定生息数は２００２年度３８，０００頭から、２００６年度５３，０００頭と大幅な拡大傾向にあります。（三重県環境森林部資料）

名張地方でも農林被害が拡大傾向にあり、赤目・龍神山でもシカによる樹木の皮剥被害が広がっています。山頂付近では樹齢１４～１５年の若木２００本余が枯死。悲惨な状況。これでは日本林業の未来が危ぶまれます。

日本林業の衰退は、国土保全からみても大変危惧すべきことです。

（写真＝名張市赤目町龍神山にて）

農林水産省の統計では、シカによる農作物被害額は約58億円。（平成20年度）

このような経済的損失に加え、生産意欲の減退が農山村地域における深刻な問題です。

生物多様性の観点に配慮しながら思い切った個体調整が必要です。

摂食線（ディアライン）が連なって、杉の若木が全て枯死している光景を見た時はなぜか恐怖さえ覚えました。緑の葉をつけた木々にも食痕が生々しく残っており、被害は広がりつつある状況。

防護柵も設置されているが、倒壊などで機能していません。林道の崩壊なども処どこに見受けられ、大崩落にもつながる危険もあります。

森林は、木材供給のほか水源のかん養など多面的機能を有しています。

「川を制するものは国を制す」といいますが、川を制するには山を制しなければなりません。

ニホンジカによる野菜や果樹の食害、水稲の踏み荒らしなどの農業被害や、樹木の枝葉食害や皮剥被害は近年急増しつつあります。

ハナレザル対策

獣害対策には、平野部の農家、中山間地の農家、また、街の人と農家ではその関心度に、大きな温度差があり、それが対策を難しくしている一つの要因となっています。

獣害対策には人間側の変化が大きく影響します。

互いに（街の人も農家も）幅広い視野と仲間意識を持ち対策に取り組むことが求められます。

人間と野生動物が棲み分けていた緩衝帯（里山）は、荒廃し、その機能を失ってしまい、近頃では街の中心部にまで出没の兆しがあります。

常俊朋子氏によると、「つつじヶ丘では山側から道路２～３本街の中心に近い方へと出没するようになりました。」

群れサルは、警戒心が強いが、一頭で生きて行かなければならない離れザルは人慣れして図太くなっています。

7月12日には、MD団・モミジの家の近くにまで出没する始末。

対　策

◎徹底的に追い払う。

サルは体験を個体間で共有します。だからある１頭を懲らしめることは群れ全体を牽制する効果があります。

◎対策三原則の実施。

「食べ物」をなくす！。

隠す！。囲う！。

軒下・ベランダ等に干してある食べ物は隠す。

◎屋根に登らせない。

団地の被害と状況

名張市会議員・MDC会員　常俊　朋子

先日、「猿新聞」発行６年という見出しで、山村さんの活動の紹介が伊賀版に掲載されました。

初めてお会いした時から、地域ぐるみの取り組みが大切と、お話して下さいました。

この度、「団地の被害や状況について」お伝え致します。

15年前に引っ越してきて、まずシカに遭遇。聞けばタヌキやキツネも出没するとか…。ここを通過するだけなら珍しい動物に出くわしてラッキー！で済みますが、暮らすとなると喜んでばかりいられません。そんな時にサルと遭遇。犬の散歩中に綺麗な毛並みの美しいサルに出会いました。大きくてどっしりとしていたその姿は、今でも目に焼き付いています。でも、以前から暮らしておられる方のお話を伺いますと、家庭菜園の作物を「もうそろそろ食べごろ…」と収穫に行くと、人間の口に入るどころか、一口かじって散らかすありさま。挙句の果ては、段ボール箱の中のサツマイモまで起用に見つけて持ち去ります。

聞けば、サルの棲みかである山を切り開き、サルの移動経路に人間が団地を造成したことになるとか。

しかし、野生のサルが団地内を我が物顔で移動されるのは困ります。

５～６年くらい前から、かなり行動が大胆になってきました。団地の山側や公園で見られたサルが、山側から道路２～３本街の中心に近い方へと出没するようになりました。登下校時にサルが現れるたびに、小・中学校と連携して、子どもたちに指導していただき、サルの目撃があった方面に地域の方とのパトロール。そんな時に、宇陀市・名張市のモンキードッグの取り組みをお聞きし、犬を訓練するに当たっての適性検査を受け、参加させていただくことになりました。初出動は、雨上がりの日で、番町の防災訓練をするために草刈りに集まっていたにもかかわらず、１０頭近く出没。ちょうど散歩の帰り道、その場に出くわし出動しました。その後、畑を毎年荒らされて困っていらっしゃる方のところへ追い払い隊と協力して、サルを追い払いました。それ以降は、一度も出没していないと伺っています。

つつじが丘では、「サルの方が先住民」という方もいらっしゃいます。

被害にあわれた方も、駆除や、徹底して追い払うということまでは思われないようです。

しかし、今以上に団地内を歩きまわる「はぐれザル」の怖さを考えれば、団地内は、「危険な場所」とサル自身に感じてもらうことが大事と猿の追い払いに、熱心に取り組んで下さっている方もいらっしゃいます。

サルに噛まれる感染症

「瓦はがし」やテレビアンテナなどの被害防止。

雨どい等をつたって登るため、つたう場所に両面テープを巻いたり、グリスを塗る。

５月上旬、元指南員の福西久則氏が、ボランティアとして深野付近をパトロール中、Ｂ群の凶悪なサルと遭遇し噛まれ受傷。

傷はたいしたことはなく気にもとめていなかったそうですが、急激な発熱で病院に駆け込みサルによる感染症と診断され入院。生死の狭間（はざま）をさまよったそうです。

★サルの感染症には「ヒトのサル痘」など重症になることが多いそうです。

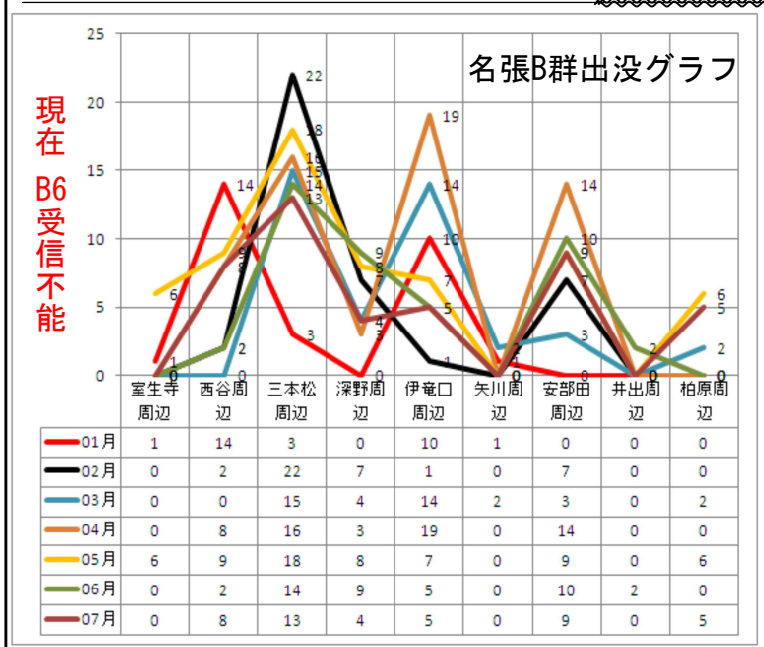
★噛まれたら即病院へ！

手遅れは重症につながり大変危険です。

日常生活での怪我と、サルに噛まれた（掻かれた）怪我の処置方法は大きく違います。必ず、サルに噛まれた事を医師に言う。傷口の大小に関係なく一刻を争います。

★噛まれるような危険な行動をしないこと。

一人でサルと遭遇したときは、サルを興奮させないように無視して、静かにその場から立ち去ることです。特に女性や子供には、攻撃してくることがありますので十分な注意害必要です。



	室生寺周辺	西谷周辺	三本松周辺	深野周辺	伊竜口周辺	矢川周辺	安部田周辺	井出周辺	柏原周辺
01月	1	14	3	0	10	1	0	0	0
02月	0	2	22	7	1	0	7	0	0
03月	0	0	15	4	14	2	3	0	2
04月	0	8	16	3	19	0	14	0	0
05月	6	9	18	8	7	0	9	0	6
06月	0	2	14	9	5	0	10	2	0
07月	0	8	13	4	5	0	9	0	5

イノシシ対策

イノシシの出る季節になりました。

イノシシは臆病な性格から環境のちょっとした変化に敏感に反応し警戒しますが、単なるおどしにはすぐに慣れてしまいます。記憶力は高く、一度「エサ場」と認識した田畑には何度でも侵入します。去年被害があった田は要注意です。

対　策

◎集落全体で取り組むことが大事です。

●侵入防止柵

侵入防止柵の設置は、他の多くの野生動物にも効果があり、最も効果的な方法の一つです。

柵の設置で注意すべきことは、イノシシは意外にも敏しょうで身体能力も高いという点を踏まえ対策を立てることが大切。

・掘り返す能力に優れていて、鼻先で60～70kgの物でも持ち上げる。

・意外にもジャンプ力があり、１ｍ程度の高さも飛び越える。

・20cmの隙間でもくぐり抜ける。

被害を受けてもあきらめず、根気よく柵の管理と改良を繰り返すことが大切です。

●匂いや音、視覚効果による対策（応急的対策）

イノシシは警戒心が強く、匂いや音にも敏感。

昔からこれらの習性を利用した様々な対策が行われてきました。

昔から知られている方法。

・人の髪の毛を束ねたものを吊す。

・石けん、線香、コールタールなどの匂いを付ける方法などがあります。

●環境の整備

イノシシは開けた場所を嫌います。

このため山林内や薮に沿って移動することが多く、狙われるのは山林や薮に面した農地です。

泥浴びが好きなので、湿地などを好みます。

農地に面した薮などを刈払うなど環境を整備し、イノシシの好む環境を排除することが、最も大事な対策の一つです。